

防災に関する住民啓発、教育事業

アナ： 「市長が語る 2017 三島」第 14 回の今日は、「防災に関する住民啓発、教育事業」についてお話を伺います。豊岡市長、よろしくお願ひします。

市長： よろしくお願ひします。

アナ： 平成 23 年には東日本大震災、そして昨年は熊本地震が発生しましたが、静岡県でも南海トラフ巨大地震の発生が想定されています。三島市では防災・減災対策をどのように進めていますか。

市長： 東日本大震災の教訓を踏まえ、「自らの命は自ら守る」、「自らの地域は皆で守る」を基本に、防災体制の強化に向けて、行政、自主防災組織、家庭、事業所が相互に連携しながら、避難行動要支援者への対応、女性に配慮した防災対策、避難所運営のためのマニュアルや体制づくりなどを進めています。

アナ： まず、三島市と自主防災組織の連携においては、具体的にどのような事業が行われていますか。

市長： 自主防災組織は、市内に 141 団体あり、5 月 18 日と 19 日の 2 日間、自主防災組織を対象として事務説明会を開催しました。平常時、災害時の基本的な活動内容ははじめ、自主防災活動が活性化するよう、市の支援内容を記載した三島市独自の自主防災活動マニュアルを配布し、基本的な仕組みなどを説明させていただきました。

また、自主防災組織のリーダー研修会を 6 月 20 日から 7 月 14 日までの合計 8 回実施し、災害時の簡易トイレの使用方法や身近な物を活用した救護活動など、実践的な内容を学んでいただいております。

アナ： なるほど、自主防災組織向けに三島市独自のマニュアルを作成して説明会で配布し、リーダー研修会では災害時の実践的な内容を実施しているということですね。次に一般家庭との連携ではどのような事業を行っているのでしょうか。

市長： 住民向けの防災講演会といたしまして、今年の 3 月 11 日に順天堂大学保健看護学部を会場に、NPO 法人日本トイレ研究所 代表理事 加藤篤（かとうあつし）氏を招いて「大規模災害に学ぶトイレの現状と対策」というテーマでの講演会を開催しました。この講演会には約 150 人もの参加がありましたが、そのほかに、家庭内での備えが地域の防災力向上につながることから、自治会、学校など幅広い世代を対象に各種出前講座を実施しています。

アナ： そのほかに子育て世代を対象とした講座もあると聞いていますが、どのような講座でしょうか。

市長： そうですね。以前開催しました、女性の視点での防災対策意見交換会で「託児付きで気軽に参加できる防災対策講座を開催してほしい」という声がありました

ので、「毎日忙しくて防災まで手がまわらない」、「子連れで講座に参加できない」という子育て中のママを対象に、昨年12月は大掃除にあわせた内容の講座、1月には普段の生活から活用できる料理講座を開催し、大変好評を得ることができました。この講座では子育て世代が参加しやすいように子どもの託児も行っています。今年度も引き続き開催する予定ですので、ラジオをお聞きの方もご参加いただけると幸いです。

アナ： 子どもの託児もしていただけると参加がしやすいですね。ほかに民間企業などとの連携はあるのでしょうか。

市長： 3月10日に市内一斉の三島市シェイクアウト訓練を実施しました。この訓練には、小中学校、幼稚園、保育園、高校、大学、企業、事業者、市民団体など、合計116団体に登録いただき、約2万人が参加しました。

アナ： シェイクアウト訓練とはどのような訓練ですか。

市長： 地震発生時に自分がどこにいるか分かりません。家、職場、学校または旅行中かもしれません。その時どのように行動するかによって、次の地震が発生した後の私たちの人生を大きく左右します。そのため、シェイクアウト訓練は、地震発生時の安全確保行動1-2-3「まず低く、頭を守り、動かない」を身につける訓練です。

アナ： 20,000人も市民が参加した訓練なのですね。今日のお話では、三島市は幅広い市民を対象に、住民啓発、教育事業を実施していることが良くわかりました。最後にお伺いしますが、防災・減災ではどのようなことが大事なのでしょうか。

市長： そうですね。静岡県は南海トラフ巨大地震の発生が想定されていて、第4次地震被害想定では、三島市の最大震度は6強となっており、多くの建物被害、人的被害が想定されております。東日本大震災の教訓であらためて確認されましたのは、「自らの命は自ら守る」こと、そして「自らの地域は皆で守る」ことの大切さであると考えます。三島市に住んでいる人や物、財産を守るためには、市役所だけでなく、事業者や市民の皆様と力をあわせて、防災・減災対策に取り組んでいくことが一番大事だと考えています。

アナ： 豊岡市長、本日はありがとうございました。

市長： ありがとうございました。